

令和3年度 学校評価 ①

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化 A+B	評価者	昨年度	
									人数	%				
自分の考えと比べながら聴く力を育てる。	・自分の考えと同じかちがうかをくべながら聴くことができた。	聞く力・反応	21		21		21		21		95%	児童	82%	
			A	4	2	0	2	0	8	38%				
			B	2	2	3	1	4	12	57%				
			C	0	1	0	0	0	1	5%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
	・人の話をよく聞く力が育っている。	聞く力・反応	21		21		21		21		90%	保護者		
			A	1	3	2	0	2	8	38%				
			B	5	2	0	3	1	11	52%				
			C	0	0	1	0	1	2	10%				
	・自分の考えと比べながらきくことができるように指導を工夫した。	聞く力・反応	6		6		6		6		100%	教職員		
			A						1	17%				
			B						5	83%				
C								0	0%					
自分の考えを表現する場を十分に設定し、積極的に発言できるようにする。	・授業や全校道徳で、自分の考えを発表することができた。	考えの発表	21		21		21		21		100%	児童	82%	
			A	5	2	0	2	2	11	52%				
			B	1	3	3	1	2	10	48%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
	・人前でしっかりと話す力が育っている。	考えの発表	21		21		21		21		95%	保護者		
			A	2	1	2	1	3	9	43%				
			B	3	4	1	2	1	11	52%				
			C	1	0	0	0	0	1	5%				
	自分の考えを表現する場を十分に設定し、積極的に発言できるように指導した。	考えの発表	6		6		6		6		100%	教職員		
			A						0	0%				
			B						6	100%				
C								0	0%					
・児童は、人の話をよく聞き、その内容に対して自分なりに応答する力が育っている。	考えの発表	13		13		13		13		92%	地域	100%		
		A						7	54%					
		B						5	38%					
		C						1	8%					
		D						0	0%					
よく考える子「自分の考えを持ち、表現・行動する力を」	・学級会や係の仕事、たてわり活動や委員会活動で、自分で考えたり工夫したりしながら活動することができた。	創意工夫	21		21		21		21		95%		児童	95%
			A	6	1	0	0	1	8	38%				
			B	0	3	3	3	3	12	57%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	1	0	0	0	1	5%				
	・自分で考えたり工夫したりしながら活動しようとしている。	創意工夫	21		21		21		21		86%		保護者	
			A	3	1	2	0	2	8	38%				
			B	2	3	1	3	1	10	48%				
			C	1	1	0	0	1	3	14%				
	・縦割り班活動や委員会活動で、児童が創意工夫しながら活動する場面を多く設定した。	創意工夫	6		6		6		6		100%	教職員		
			A						0	0%				
			B						6	100%				
C								0	0%					
D						0	0%							

育 て る	・宿題を忘れずに、家ですることができた。	家庭学習					21			95%	児童	86%
		A	6	3	3	2	2	16	76%			
		B	0	2	0	1	1	4	19%			
		C	0	0	0	0	1	1	5%			
		D	0	0	0	0	0	0	0%			
		家庭学習					21			86%	保護者	
		A	4	2	2	1	2	11	52%			
		B	1	3	1	0	2	7	33%			
		C	1	0	0	2	0	3	14%			
		D	0	0	0	0	0	0	0%			
		家庭学習					6			100%	教職員	
		A						3	50%			
	B						3	50%				
	C						0	0%				
	D						0	0%				
	・授業が楽しく、分かりやすい。	授業					21			100%	児童	91%
		A	5	5	2	0	1	13	62%			
		B	1	0	1	3	3	8	38%			
		C	0	0	0	0	0	0	0%			
		D	0	0	0	0	0	0	0%			
		授業					21			86%	保護者	
A		3	4	1	1	2	11	52%				
B		3	1	2	0	1	7	33%				
C		0	0	0	2	1	3	14%				
D		0	0	0	0	0	0	0%				
授業					6			100%	教職員			
A							2			33%		
B							4			67%		
C							0			0%		
D							0	0%				
環境					14			100%	地域			
A							11			79%		
B							3			21%		
C						0	0%					
D						0	0%					

【結果分析】

①スクールプラン重点目標の「考えを比べながら聞く」は95%、「考えを発表する」は100%の児童が「できた」と回答しており、目標値(80%、85%)を大きく上回った。少人数グループ内で意見を言う力や、高学年が異学年の多様な意見を聞いてまとめる力も高まってきている。人の意見を大切にしっかりと聞く姿勢と、学級または全校道徳等で、考えを表現する場を十分に設定してきた成果と言える。一方で、自分と友達の考えを比べたことを生かして反応・表現したり、全校や校外の人との交流の場で積極的に考えを表現することについては、今後の課題である。

②スクールプラン重点目標の「創意工夫して活動する」は95%の児童が「できた」と回答しており、目標値(90%)を上回った。＜応援合戦＞＜育成カップ＞＜新型コロナ対策＞＜誕生日集会＞＜読み聞かせ＞など、縦割り活動や委員会活動で、児童がアイデアを出し合い、主体的に活動する場面を多く設定してきた成果と言える。児童は経験を積み重ねて見通しを持って活動できる場面が増え、活動意欲も増している。

③「授業」については、100%の児童が「楽しく分かりやすい」と回答しているが、保護者の回答結果から、学年が上がるにつれて学習内容も高度になり、理解が難しくなる傾向が見られる。また、家庭学習が習慣づいていない児童もいる。

【対応策】

①「考えを比べながら聞き、積極的に反応・表現する」ための対応策として、以下の手立てを工夫する。

- ・授業中、自分の意見が友達と似ているときはピースサイン、自信がないときはグーといったように意思表示をさせながら挙手をさせ、教師はそれを踏まえて指名するなど、学年に応じた挙手・指名の仕方を工夫する。
- ・友達の意見を他の児童に繰り返し言わせる場を設定するなど、聞く責任を持たせる。また、相槌、うなずき等、聞き方の指導を行い、安心して表現できる雰囲気づくりに努める。
- ・全教職員が表現する場を設定することを意識して授業や集会に臨み、少人数での話し合いの後に全体で話させるようにする。また、表現できた場を捉え、教師が褒めて価値づけていく。

②「授業」では、児童一人一人の理解度の把握に努めて寄り添いながら指導し、基礎基本の定着に力を入れたり、応用問題に取り組ませたりする。「家庭学習」については、宿題の締め切りを1週間後にしたり、自主学習に取り組ませたりする等、児童が考えて取り組める内容を検討する。

令和3年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年					アンケート結果		数値化	評価者	昨年度	
				3年	4年	5年	6年	人数	%	A+B				
人 や 自 分 を 大 切 に す る 子 「 やさしさとたくましさを育てる」	いつでもどこでも誰にでも、自分からあいさつができるように指導を工夫する。	・進んであいさつすることができた。	あいさつ					23			91%	児童	82%	
			A	6	3	0	1	0	10	43%				
			B	0	2	3	2	4	11	48%				
			C	0	1	1	0	0	2	9%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・家で朝夕の挨拶や食事のあいさつができています。	あいさつ					21			76%	保護者	55%	
			A	2	4	1	1	2	10	48%				
			B	2	0	1	1	2	6	29%				
			C	2	1	1	1	0	5	24%				
		・いつでもどこでも誰にでも、自分からあいさつができるように指導を工夫した。	あいさつ					6			83%	教職員	100%	
			A						3	50%				
			B						2	33%				
			C						1	17%				
		児童は、登下校時にすんであいさつができています。	あいさつ					14			86%	地域	90%	
			A						3	21%				
			B						9	64%				
	C							2	14%					
	人 や 自 分 を 大 切 に す る 子 「 やさしさとたくましさを育てる」	いじめ・不登校の未然防止に努める。	・毎日学校へ行くのが楽しい。	不登校未然防止					21			86%	児童	82%
				A	4	5	2	0	1	12	57%			
				B	2	0	1	2	1	6	29%			
C				0	0	0	1	2	3	14%				
・学校へ行くのを喜んでおり、不登校の傾向は感じない。			不登校未然防止					21			90%	保護者	86%	
			A	5	4	1	1	2	13	62%				
			B	1	1	2	1	1	6	29%				
			C	0	0	0	0	1	1	5%				
・誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができる環境を作り、不登校を未然防止することに努めた。			不登校未然防止					6			100%	教職員	100%	
			A						4	67%				
			B						2	33%				
			C						0	0%				
・悪口や仲間外れがなく、いじめのない学校だと思ふ。			いじめ防止					21			95%	児童	95%	
			A	4	5	3	2	1	15	71%				
			B	2	0	0	1	2	5	24%				
			C	0	0	0	0	1	1	5%				
・悪口や仲間外れなど、いじめのない学校だと思ふ。		いじめ防止					21			90%	保護者	82%		
		A	4	3	2	1	2	12	57%					
		B	2	2	1	1	1	7	33%					
		C	0	0	0	0	1	1	5%					
・いじめを早期発見できるように、定期的にアンケートや面談を実施した。	いじめ防止					6			100%	教職員	100%			
	A						1	17%						
	B						5	83%						
	C						0	0%						
児童は、人を傷つけるような言動を行わず、楽しく学校生活を送っている。	いじめ防止					10			90%	地域	100%			
	A						6	60%						
	B						3	30%						
	C						1	10%						
	いじめ防止					10			90%	地域	100%			
	A						6	60%						
	B						3	30%						
	C						1	10%						

食事や睡眠等の基本的な生活習慣の確立に向けた取り組みを行う。	・ねる時こくを守ることができた。	生活習慣					21			90%	児童
		A	4	3	0	2	1	10	48%		
		B	2	1	3	1	2	9	43%		
		C	0	1	0	0	1	2	10%		
	D	0	0	0	0	0	0	0%			
	・ねる時こくを守っている。	生活習慣					21			86%	保護者
		A	4	4	1	2	0	11	52%		
		B	1	1	1	1	3	7	33%		
		C	1	0	1	0	0	2	10%		
	D	0	0	0	0	1	1	5%			
	基本的な生活習慣の確立(睡眠等)に向けた取組を行った。	生活習慣					6			83%	教職員
		A						2	33%		
B							3	50%			
C							1	17%			
D						0	0%				
熊川小スマートルールの見直しと徹底を図り、集団で守っていこうとする意識を高める。	家や学校で決めたスマートルールを守っている。	スマートルール					21			81%	児童
		A	4	2	1	2	1	10	48%		
		B	2	1	2	0	2	7	33%		
		C	0	2	0	1	1	4	19%		
	D	0	0	0	0	0	0	0%			
	・ゲームやインターネットなどを使用するときは、家や学校で決めたルールを守っている。	スマートルール					21			71%	保護者
		A	4	3	1	0	1	9	43%		
		B	0	1	1	2	2	6	29%		
		C	1	1	1	1	0	4	19%		
	D	1	0	0	0	1	2	10%			
	・熊川小スマートルールの見直しと徹底を図り、集団で守っていこうとする意識を高めた。	スマートルール					6			83%	教職員
		A						2	33%		
B							3	50%			
C							1	17%			
D						0	0%				

73%

59%

## 【結果分析】

①スクールプラン重点目標の「進んであいさつができた」児童は91%で、目標値(85%)を上回った。いつでもどこでも誰にでも安定して挨拶ができ、全校で褒める対象になる児童も数名出てきている。しかし、保護者の回答は76%、地域の方の回答は86%となっており、決して目標が達成できたとは言えない。場所や時間帯、そのときの児童の気分等によって挨拶の仕方が異なっていることが想定される。

②スクールプラン重点目標の「学校が楽しい」児童は86%で、目標値(85%)を上回ってはいるが、C評価の児童も数名いる。アンケートや観察から気がかりな児童については、教育相談等で担任を中心に困り感を聞き取り、児童に寄り添った対応を心がけている。(今のところ良い方向に向かっている)

③スクールプラン重点目標の「寝る時刻を守ることができた」児童は90%で、目標値(90%)に到達した。児童、保護者ともにC・D評価もあるが、生活チェックなどの取り組みで意識できていることを把握している。

④スクールプラン重点目標の「スマートルールを守ることができた」児童は81%で、目標値(75%)を上回っているが、保護者は71%と低い評価であり、児童との評価にギャップがある。児童は、生活チェックなどの取り組み時に守っているという評価であり、保護者は、日々の取り組みとして評価していることが想定される。スマートルールに関する取組や質問内容の再検討が必要である。

## 【対応策】

①「あいさつ」については、「いつでも どこでも だれにでも挨拶できる熊川っ子」が伝統となるよう、児童会が主体となって取り組める方策を考える。

②「いじめ・不登校」については、今後も児童が安心して楽しく通える学校づくりに努めるとともに、黄・赤信号を発している状況を見逃すことなく、継続した状況把握や児童理解、児童に寄り添った対応をしていく。また、児童の強みを引き出すとともに、逆境や困難に直面したときに回復できるレジリエンス力を育てていく。

③スマートルールについては、持続可能な取組となるよう、時間に関する一律のルールを取りやめ、「家で決めたルールを守る」など、親子でコミュニケーションをとりながら、(余暇の過ごし方も含め)やる気を持って取り組めるルールとなるよう見直しを図る。

令和3年度 学校評価 ③

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年					アンケート結果		数値化 A+B	評価者	昨年度
				3年	4年	5年	6年	人数	%				
チャレンジする子「目標に向かって粘り強く取り組む力を育てる」	・学期ごとに自分の目標を設定し、目標に向かって努力する習慣をつけ、可能性を引き出す。	・自分が決めた目標に向かって努力することができた。	目標設定・努力					21		95%	児童	86%	
			A	5	4	0	0	1	10				48%
			B	1	1	3	3	2	10				48%
			C	0	0	0	0	1	1				5%
		D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・自分が決めた目標に向かって努力することができていた。	目標設定・努力					21		86%	保護者		
			A	3	2	2	0	3	10				48%
			B	2	2	1	2	1	8				38%
			C	1	1	0	1	0	3				14%
		D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・学期ごとに自分の目標を設定し、目標に向かって努力する習慣をつけ、可能性を引き出すことができた。	目標設定・努力					6		100%	教職員		
			A						3				50%
B						3	50%						
C						0	0%						
D						0	0%						
チャレンジする子「目標に向かって粘り強く取り組む力を育てる」	・学年ごとに必読図書や目標ページ数を設定し、読書に取り組む。	・読書で、自分が立てた目標を達成することができた。	読書					21		86%	児童	85%	
			A	0	2	0	1	0	3				14%
			B	6	3	3	1	2	15				71%
			C	0	0	0	1	1	2				10%
		D	0	0	0	0	1	1	5%				
		・親子で一緒に本を読んだり、読んだ本について話し合ったりすることができた。	読書					21		76%	保護者		
			A	4	2	1	0	2	9				43%
			B	1	2	2	1	1	7				33%
			C	1	0	0	2	1	4				19%
		D	0	1	0	0	0	1	5%				
		・学年ごとに必読図書や目標ページ数を決めるなど、目標を設定して読書活動を推進することができた。	読書					6		83%	教職員		
			A						2				33%
B						3	50%						
C						1	17%						
D						0	0%						
チャレンジする子「目標に向かって粘り強く取り組む力を育てる」	・年間3回の漢字計算テストにおいて、一回で合格できるよう学び方を含めた指導をする。	・漢字・計算コンテストで合格できるよう努力することができた。	漢字・計算コンテスト					21		95%	児童	91%	
			A	4	2	1	2	2	11				52%
			B	2	2	2	1	2	9				43%
			C	0	1	0	0	0	1				5%
		D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・漢字、計算コンテストで合格できるように、一生懸命取り組んでいた。	漢字・計算コンテスト					21		90%	保護者		
			A	4	3	2	2	2	13				62%
			B	1	2	1	1	1	6				29%
			C	0	0	0	0	1	1				5%
		D	1	0	0	0	0	1	5%				
		・年間3回の漢字計算テストにおいて、一回で合格できるよう学び方を含めた指導をすることができた。	漢字・計算コンテスト					5		100%	教職員		
			A						2				40%
B						3	60%						
C						0	0%						
D						0	0%						
チャレンジする子「目標に向かって粘り強く取り組む力を育てる」	・家でよくお手伝いをしている。	・掃除・給食当番活動など責任を持って仕事をすることができた。	主体性					21		100%	児童	41%	
			A	6	3	3	3	4	19				90%
			B	0	2	0	0	0	2				10%
			C	0	0	0	0	0	0				0%
		D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・家でよくお手伝いをしている。	主体性					21		62%	保護者		
			A	2	1	1	0	0	4				19%
			B	1	2	2	2	2	9				43%
			C	2	1	0	1	1	5				24%
		D	1	1	0	0	1	3	14%				
		・児童が掃除・給食当番活動などの仕事に、責任を持って取り組めるよう指導を工夫した。	主体性					5		100%	教職員		
			A						3				60%
B						2	40%						
C						0	0%						
D						0	0%						

**【結果分析】**

①スクールプランの重点目標の「目標に向かって努力できた」児童は95%であり、目標値(85%)を大きく上回った。しかし、実際には、学期ごとの目標が形だけになってしまったり、「二重とびを10回できるようになる。」など具体的過ぎて、それが終わると目標がなくなってしまう場合があった。低学年においては、月ごとに自分の立てた目標について振り返りを行い、その振り返りをもとに翌月の目標を立てて掲示することを続け、児童の意識を高めることができた。

②スクールプランの重点目標の「読書で目標ページ数達成できた」児童は86%であり、目標値(75%)を大きく上回った。一方で、親子読書に関する保護者の回答は76%であり、取組時は前向きな意見をもらっていたが、評価としては低かった。

③スクールプランの重点目標の「漢字・計算コンテストで合格できるよう努力できた」児童は95%であり、目標値(90%)を上回った。しかし、長期休みの宿題として練習プリントを出すと、いい加減に取り組んでしまう場合も見られる。

④「掃除・給食当番活動など責任をもって仕事できた」児童は100%であり、縦割り班で協力しながら、どの児童も非常によく頑張っている。決められた仕事はもちろん、決められたこと以外の仕事に取り組める児童も多い。一方で、「家でのお手伝い」については、手伝いの捉え方が家庭によって違うこともあり、保護者の回答は62%と低い評価である。

**【対応策】**

①「目標に向かって(継続して)努力する」ことができるように、学期を通して目指せるような目標を立てさせ、その内容について担任が目を通して指導を入れるとともに、上記、低学年の取り組みを参考に、目標を振り返る機会を設定する。

②「読書」については、発達段階に応じた本の選び方について指導し、ページ数や冊数等、具体的な数値目標を立てて記録させる。(本の選択の際には音読や教科書を読むことも推進していく。)また、親子読書を3学期にも実施する。

③「漢字・計算コンテスト」については、指導と評価という観点で見ると、学期初めではなく、学期中の実施を考えることも必要である。コンテストの時期や回数、取り組み方について検討する。また、中・高学年においては、長期的なテスト勉強の方法を指導する必要性も感じている。

④「仕事」については、決められたこと以外にも自主的に仕事をする場面を捉え、教師がその都度、価値づけていく。また、「家での手伝い」については、靴を揃えていたり、ごみを捨てたり等、「家では、よく気づいて動けることがあるか」を問う質問内容にするなど、家族の一員として自主的に行動している部分を評価してもらえるようにする。

令和3年度 学校評価 ④

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化	評価者	昨年度	
									人数	%				A+B
家庭・地域との連携 「信頼される学校づくり」	・家庭や公民館、地域団体との連携の推進	・連絡帳や電話などを使って、学校と連絡を密にして、学校と家庭が協力して教育を進められた。	家庭との連携					21		90%	保護者	73%		
			A	4	2	2	1	4	13				62%	
			B	2	2	0	2	0	6				29%	
			C	0	1	1	0	0	2				10%	
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
		・電話連絡や家庭訪問などを実施し、保護者と連携しながら指導を推進できた。	家庭との連携					6		100%	教職員	100%		
			A						2				33%	
			B						4				67%	
	C							0	0%					
	D						0	0%						
	・学校だよりや学校ブログや学級だより等の各種お便りを通じて、児童の学校生活の様子などがよく伝わってきた。	・学校だより、学校ブログや学級だより等の各種お便りを通じて、児童の学校生活の様子などがよく伝わってきた。	情報発信					21		100%	保護者	91%		
			A	5	4	3	1	4	17				81%	
			B	1	1	0	2	0	4				19%	
			C	0	0	0	0	0	0				0%	
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
		・学校だよりやブログ等による地域への積極的な情報発信	・学校だより、学級だより等を発行し、学校や学級の様子を情報発信することができた。	情報発信					6		100%	教職員	100%	
				A						5				83%
				B						1				17%
				C						0				0%
		D						0	0%					
		・学校だより、学校ブログ等を通じて、学校の様子がよく伝わってきた。	・学校だより、学校ブログ等を通じて、学校の様子がよく伝わってきた。	情報発信					14		93%	地域	100%	
A									12	86%				
B						1	7%							
C						1	7%							
D						0	0%							
・地域と共にする学習活動や地域との体験活動の推進	・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い、効果を上げている。	ふるさと学習					21		100%	保護者	100%			
		A	5	4	3	3	4	19				90%		
		B	1	1	0	0	0	2				10%		
		C	0	0	0	0	0	0				0%		
	D	0	0	0	0	0	0	0%						
	・地域の自然や施設、地域の人材を活用した授業や活動を実施し、ふるさとへの意識を高めることができた。	・地域の自然や施設、地域の人材を活用した授業や活動を実施し、ふるさとへの意識を高めることができた。	ふるさと学習					6		100%	教職員	100%		
			A						3				50%	
			B						3				50%	
			C						0				0%	
	D						0	0%						
	・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い、効果を上げている。	・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い、効果を上げている。	ふるさと学習					14		100%	地域	100%		
			A						11				79%	
B								3	21%					
C								0	0%					
D						0	0%							
安全	・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全					21		100%	保護者	86%			
		A	4	3	2	0	4	13				62%		
		B	2	2	1	3	0	8				38%		
		C	0	0	0	0	0	0				0%		
	D	0	0	0	0	0	0	0%						
	・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全					12		92%	地域	100%		
			A						8				67%	
			B						3				25%	
C								1	8%					
D						0	0%							
業務改善	・積極的に業務改善に努め、勤務時間を意識しながら、業務を遂行することができた。	業務改善					7		86%	教職員	100%			
		A						1				14%		
		B						5				71%		
		C						1				14%		
D						0	0%							
【自由記述】 地域の方から	・児童は礼儀正しく、挨拶もよく出来ていると思います。 ・進んで挨拶できていないように感じます。 ・コロナ禍でたいへんですが、熊川地区だけの人間にならないか心配！「いじめ」だけ、気をつけて欲しいです。													

**【結果分析】**

①保護者対象の「家庭との連携」項目の肯定的評価が、昨年度より17%上昇し90%となっている。日頃から児童一人一人のがんばりや気がかりなこと、小さな変化について教職員間で情報共有し、時期を逸することなく保護者に伝えたり、積極的にコミュニケーションの場を設けたりしてきた成果と言える。

②保護者対象の「情報発信」項目の肯定的評価が、昨年度より9%上昇し100%となっている。学校ブログのこまめな発信、学級だよりや学校だより、保健だより等の定期発信により、学校の方針や児童の学校生活の様子が十分伝わったと考える。また、昨年度の学校評価アンケートを受けて始め、毎日更新している玄関モニターを活用した癒しの音楽、日々の活動写真や誕生日紹介のスライドショーは、来客からも好評で、児童及び教職員の活力源となっている。

③保護者対象の「安全」項目の肯定的評価が、昨年度より14%上昇し100%となっている。新型コロナの感染拡大状況に応じた感染症対策や緊急時引き渡し訓練の実施など、職員間の共通理解および保護者との連携を大切にしながら進めてきた成果と言える。

④地域対象の「安全」項目の肯定的評価は、8%低下し92%となっている。今年度、学校防災アドバイザーによる防災教室を実施したが、「非常持ち出し袋」づくりなど、保護者や地域の方と一緒に聞くことで効果の上がる内容であったのに、地域の方への参加呼びかけをしなかったことを反省している。地域の方とともに防災対策を考える必要がある。

**【対応策】**

①保護者対象の「家庭との連携」項目の質問内容は、「連絡帳や電話等での連絡をする必要がなかった」保護者にとっては、どの評価にしていかが迷う問い方である。次年度は、「保護者が相談しやすい学校の雰囲気があるかどうか」を問う質問内容にすることを検討する。

②今後、外部講師による防災教室を実施する際は、学校公開日に設定し、保護者や家庭・地域・学校協議会の方に参加を呼びかけるようにする。

③年末の大雪で、学校裏山の木がたくさん折れており危険な状態である。地主さんも高齢になられ、学校での対応を求めておられるが、学校の職員だけでは対応しきれない。可能な範囲で、地域の方のお知恵やお力を貸していただけるようお願いする。